

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・7 vol.430

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



故 大堀 勉 名誉理事長・名誉学長 学校法人岩手医科大学葬

〈写真撮影：7月7日(土) 関連記事P4〉

おもな内容

- 特 集 故 大堀 勉先生を偲ぶ
- 就 任 挨 拶 歯科医療センター長就任ご挨拶 歯科医療センター長 杉山 芳樹
- 表彰の栄誉 二井 将光 薬学部長が「日本学士院賞」を受賞しました
- トピックス 平成24年度共通教育センター野外活動が行われました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.39 熱中症について 救急医学講座 助教 菊池 哲



学校法人岩手医科大学名誉理事長
岩手医科大学名誉学長

大 堀 勉

大正14年 3 月 8 日生まれ（享年87）

去る6月7日(木)に逝去された本法人名誉理事長・名誉学長の故 大堀 勉先生は、その弛みのないご努力と不撓不屈の精神により幾多の大事業を推進・成功させ、今日の本学の雄姿を築き上げるとともに、本県医療の発展・向上に大きく貢献されました。

職員相互のコミュニケーションを重んじた先生は、岩手医科大学報の編集委員長として、本紙の運営にも多大なる情熱を注がれ、ご尽力されました。

本号では、故 大堀 勉先生のご遺徳を偲び、追悼特集を掲載いたします。

【略 歴】

昭和17年 3 月	福島県立会津中学校（旧制）卒業
昭和19年 4 月	岩手医学専門学校入学
昭和24年 3 月	岩手医学専門学校卒業
昭和24年 4 月	国立千葉病院において病院実地修練（昭和25年 3 月迄）
昭和25年10月	医籍登録
昭和25年12月	東京慈恵会医科大学高田外科教室副手
昭和27年 2 月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室に転ず
昭和29年 1 月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室助手任用（昭和35年 1 月31日迄）
昭和34年 6 月	医学博士（東京慈恵会医科大学）
昭和35年 2 月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室講師昇任（昭和36年 4 月30日迄）
昭和36年 5 月	岩手医科大学医学部皮膚科泌尿器科学講座助教授任用（昭和41年 3 月31日迄）
昭和41年 4 月	岩手医科大学医学部泌尿器科学講座教授昇任（平成 5 年 3 月31日迄）
昭和52年 7 月	岩手医科大学学生部長（昭和59年 3 月31日迄）
昭和54年 4 月	学校法人岩手医科大学評議員就任（平成24年 2 月22日迄）
昭和59年 4 月	岩手医科大学医学部附属病院院長就任（昭和60年 3 月31日迄）
	学校法人岩手医科大学理事（ 5 号理事）就任（昭和63年 1 月28日迄）
昭和60年 4 月	岩手医科大学医学部長就任（昭和63年 3 月31日迄）
昭和62年 6 月	岩手医科大学学長職務代理（昭和63年 1 月28日迄）
昭和63年 1 月	岩手医科大学第 7 代学長（ 1 号理事）就任（平成 8 年 1 月28日迄）
平成 2 年 5 月	学校法人岩手医科大学第 7 代理事長就任（平成24年 2 月22日迄）
平成 5 年 4 月	岩手医科大学名誉教授
平成 8 年 1 月	学校法人岩手医科大学理事（ 4 号理事）就任（平成24年 2 月22日迄）
平成16年 8 月	岩手医科大学名誉学長
平成24年 3 月	学校法人岩手医科大学名誉理事長

【受章、表彰】

平成 9 年 5 月	岩手県勢功労者顕彰
平成12年 4 月	勲二等瑞宝章受章
平成12年11月	盛岡市市勢振興功労者表彰
平成12年12月	福島県会津坂下町名誉町民推戴
平成13年11月	福島県外在住功労者知事表彰

学校法人岩手医科大学葬がしめやかに営まれました

本法人名誉理事長・名誉学長 故 大堀 勉先生の学校法人岩手医科大学葬が、7月7日(土)午後1時から岩手県民会館においてしめやかに営まれ、教職員はじめ学内外から約1,500名が参列し、最後のお別れをしました。

法人葬は、葬儀副委員長の祖父江憲治副学長の開式の辞で始まり、黙祷の後、葬儀委員長の小川彰理事長が追悼の辞を述べ、続いて、達増拓也岩手県知事、川崎明德日本私立医科大学協会相談役、石川育成圭陵会長・岩手県医師会会長、山内文俊三愛病院理事長、川村光朗矢巾町長から弔辞が捧げられ、多数の弔電が紹介されました。正面祭壇には大きな遺影が掲げられ、故人を偲んで参列者による献花が行われました。



追悼の辞

葬儀委員長
学校法人岩手医科大学理事長・学長

小川 彰



学校法人岩手医科大学 名誉理事長・名誉学長 故大堀 勉先生の御霊前に学校法人岩手医科大学を代表して哀悼の誠を捧げ、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。

先生は、一昨年の8月から体調を崩され入退院を繰り返しておられました。この間、法人事挙行の際には病室からご出席になられ、その都度、力強いご挨拶を頂戴しておりましたので、ご快癒も近いものと信じておりました。

しかし、やはりご無理をなさっておられたのでしょう。昨年8月、本学の同窓会である「圭陵会」総会にご出席になり、新装なった「大堀記念講堂」で力強いご挨拶をされたのが公式の場でお話しされた最後となりました。以降、入院治療が続いておりました。私ども教職員一同、一日も早いご快復を願っておりましただけに、誠に痛恨の極みであります。

6月7日は、大分ご気分もよろしかったのでしょう。お昼頃にはご家族、お孫さんと談笑されておりました。夕方になって急に血圧が下がり、ご家族が見守られる中、痛みや、苦しみもなく安らかに旅立って行かれました。懸命な介護を続けて来られたご家族皆様方の悲しみはいかばかりかとお察し申し上げる次第であります。

先生は昭和24年、本学をご卒業になり、その後、東京慈恵会医科大学の助手、講師を務められました。医学博士の学位は「尿路結石症の研究」でした。その後も「切らずに治す」治療法に取り組み、これが先生のライフワークの基礎となりました。昭和36年、母校にお戻りになり皮膚科・泌尿器科学講座の助教授に就任されました、昭和41年には、41歳の若さで泌尿器科学講座の初代教授に就任されました。爾来、27年にわたり、教授として活躍されました。患者さんにやさしい低侵襲治療を率先して実施し、昭和60年には経皮的尿路結石除去術が高度先進医療の承認を受けるに至りました。さらに腎移植の普及にも尽力されました。教室では、多くの優秀な人材を育成しました。そして、

地域医療の充実に奔走され、その功績は枚挙にいとまがありません。

昭和52年からは学生部長に就任され「啐啄同時」の教育理念の下、学生の人間的な成長、教育に情熱を注がれました。さらに、附属病院長、医学部長を歴任、そして、第7代学長に就任され、2期8年間にわたり「誠の人間を育成する」という建学の精神の下、教育・診療・研究の陣頭指揮を執っていただきました。

平成2年からは、実に21年余の長きにわたり本法人理事長をお勤めになりました。そして、卓越した経営手腕を発揮され、次々と新規事業に着手、大学の拡充発展に尽力されました。この間、附属花巻温泉病院を開院、北日本唯一の専門施設、附属循環器医療センターを開設されました。

そして、未来の生命科学に対応した教育・医療・研究を実現するため、建学以来の内丸キャンパスから広大な新天地、矢巾地区への大学及び附属病院の総合移転という壮大な計画を策定されました。

本事業は、本学の長い歴史上、最大の事業であり、教職員、関係者、県民全て一丸となって推進しなければ完遂できるものではないとしてその思いを「一座建立」の四文字に託し、その決意を示されました。

第一次事業として、広大な土地に矢巾キャンパスを開設、併せて薬学部を新設いたしました。昨年、第二次事業の校舎等新築工事が完了、医学部・歯学部の基礎講座が移転し、我が国で初めて医学部・歯学部・薬学部の医療系三学部が同一キャンパスで学ぶことので

きる環境を整備し、名実ともに医療系総合大学となりました。

また、私をなげうって、教育と地域医療の充実に心血を注がれた数多くのご功績により、勲二等瑞宝章受章の荣誉に浴されました。他、岩手県勢功労者、盛岡市勢振興功労者、福島県会津坂下町名誉町民、福島県外在住功労者などを受賞されました。先生の高い見識、熱い情熱、真摯な姿勢、深い人類愛に、改めて畏敬の念を禁じ得ません。そして、先生にご薫陶をいただくことができた僥倖に心から感謝申し上げる次第であります。

残すは、総合移転整備事業の総仕上げとなる附属病院の移転と内丸地区の再整備に着手するばかりでありました。新病院の雄姿を見ることなく幽明境を異にされ、さぞ無念であったことと拝察いたします。私どもは、先生のご遺志を継いで本事業を完遂し、岩手医科大学の発展と地域医療の更なる充実に誠心誠意努力してまいることを御霊前にお誓い申し上げます。

先生、なごりは尽きませんが、お別れしなければなりません。

願わくば、天上より、先生が愛した岩手医科大学の今後の発展を常にお見守り頂き、本法人の前途にいささかも誤りなきようにお導き下さいますよう心からお願ひ申し上げます。

また、ご遺族に対して末永く厚いご加護を賜りますようお願い申し上げます。

ここに先生のご遺徳を偲びつつ、在天の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

弔 辞

岩手県知事 達増 拓也

本日ここに故 大堀 勉先生の大学葬が執り行われるに当たり、謹んで御霊前にお別れの御挨拶を申し上げます。

大堀先生、先生の訃報に接し、私は大きな悲しみとともに痛惜、哀悼の念を抑えることができません。

御遺族の皆様方の悲しみはいかばかりかとお察し申し上げます、衷心よりお悔やみ申し上げます。

先生は、大正14年、福島県河沼郡会津坂下町に生を受けられ、昭和24年に岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校を卒業後、東京慈恵会医科大学勤務を経て、昭和36年に岩手医科大学医学部に着任し、昭和59年には附属病院長、昭和60年には医学部長、昭和63年から岩手医科大学学長、平成2年から平成24年2月までは学校法人岩手医科大学理事長として、一貫して本県医療の発展向上に全力を傾注してこられました。

大堀先生、先生は岩手医科大学の体制整備と病院機

能の充実強化に情熱を傾けられ、平成5年に厚生省から国立花巻温泉病院の経営委譲を受け、岩手医科大学附属花巻温泉病院を開設されたほか、平成9年には全国有数の高度専門医療施設として循環器医療センターを開設、また、平成19年には矢巾新キャンパスの完成とともに薬学部を開設するなど、岩手医科大学の発展に大きく寄与されました。

また、先生はいわてリハビリテーションセンターの整備にも大きく貢献され、整備委員会の委員として計画段階から御指導をいただいたほか、開設後におかれましても、財団法人いわてリハビリテーションセンターの副理事長として、医療の分野だけではなく、保健・福祉等幅広い分野にわたり連携が図られるよう、その卓越した指導力を発揮されました。



今日、多くの県民が安心して健康な生活を送ることができるのも、常に医師の養成と医療水準の向上に御尽力された先生の情熱によるものと言っても過言ではありません。また、この間財団法人岩手県対ガン協会会長、岩手県社会福祉審議会委員、岩手県医療審議会委員、岩手県総合計画審議委員会委員など、多くの要職に就かれ、その輝かしい御功績は枚挙にいとまがないところであり、県政各般にわたる施策の推進に御貢献いただきました。

こうした長年にわたる御功績により、平成9年には、岩手県県勢功労者として顕彰申し上げ、さらには平成12年に勲二等瑞宝章の栄に浴されたところでもあります。

大堀先生、岩手は、かつて経験したことのない大きな災害に見舞われましたが、現在、県内外はもとより世界中から多大なご支援をいただきながら、復興への歩みを進めているところでもあります。

復興への道のりは決して平坦なものではありません

が、県民一人ひとりの願い、思い、意志をひとつに束ね、その歩みを着実に進めて「希望郷いわて」を実現していかなければなりません。このような時にこそ、先生には従来にも増して高いお立場から、御指導を賜らなければならないところでしたが、突然の御逝去の報に接しましたことは、誠に残念でなりません。

私は、被災地の復興をはじめ、県政の様々な課題と真摯に向き合いながら、先生の御意志でもある「県民が安心して暮らせる社会」の実現を目指し、県民の皆様と手を携えながら全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

大堀先生には、どうか一日も早い岩手の復興に、力をお与えくださるようお願い申し上げます。

ここに、大堀先生の温厚篤実にして情義に厚いお人柄を偲びつつ、御霊の安らかならんことを願い、衷心より御冥福をお祈り申し上げ、弔辞といたします。

大堀先生、安らかに眠り下さい。

弔 辞

一般社団法人 日本私立医科大学協会 相談役
学校法人川崎学園 学園長

川崎 明徳

日本私立医科大学協会を代表いたしまして、学校法人岩手医科大学前理事長 故 大堀 勉先生の御霊に謹んで哀悼の意を申し上げます。

先生の訃報に接し、驚きと深い悲しみを禁じ得ません。未だに亡くなられたとは信じられない思いであります。

日本私立医科大学協会の総会ならびに理事会の懇親会で、加盟大学の方々と時局的な話題に沿った諸問題に関して、お話しされている先生の穏やかなお姿や私立医科大学の理事長が年一回、一同に集う私立医科大学理事長会のゴルフコンペでプレーなさるお姿が今でも目に浮かんでまいります。

私ども日本私立医科大学協会は、昭和48年9月に社団法人として認可を得て、我が国の医学教育界の核となるべき運命を担って誕生しました。全国の29の私立医科大学が全て加盟し、まさに日本の医学界・医療界に大きな影響力を持つ組織体として発足いたしました。

大堀先生は、岩手医科大学の代表理事として、昭和63年2月より、平成19年5月まで約20年間に亘り、協会の理事を務めてこられました。

大堀先生が協会の理事にご在任中には、役員任期満了に伴い、極めて重要な会長選出に係わる理事会の議長に幾度となく指名され、適格な議事進行を行っていただきました。

私は、昨年10月、岩手医科大学が当番大学として開



催されました協会の拡大理事会において、広大な矢巾キャンパスの施設を視察し、今後の建築計画を知る機会に恵まれました。研究領域においては、世界最高の機能を持つMRI施設を拝見し、エネルギー部門においては、地球環境の配慮にいち早く着目した「太陽光発電システム」を導入された、将来を見据えたエコキャンパスづくりを目の当たりに致しました。

大堀先生の長年のビジョンが叶い、矢巾キャンパスへの移転整備事業が着々と進められており、さぞやお喜びのことでしょう。

大堀先生の偉大なご功績は、今後、協会会員一同が受け継ぎ、私立医科大学の発展と使命の達成を誓いたいと思います。

先生が、私ども私立医科大学協会を見守り、力を与えて下さることを切に祈念し、先生のご冥福とご遺族のご平安とをお祈りして、弔辞といたします。

大堀先生、安らかに眠りください。

弔 辞

岩手医科大学同窓会 圭陵会 会長
岩手県医師会 会長

石川 育成



岩手医科大学名誉理事長・名誉学長、同窓会圭陵会顧問、岩手県医師会顧問 故 大堀 勉先生の御霊の前に、圭陵会、並びに岩手県医師会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

「巨星墜つ」。大堀 勉先生のご逝去に最も相応しい響きを感じます。

長い闘病生活を強いられながらも、一言も弱音を吐かず、まさに大病との死闘でありました。最後は刀折れ矢尽きてしまいましたが、病に敢然として立ち向かう医師としての大往生だと思っております。

5月22日、ご長男から今日は具合がいい様だとお電話を頂きました。岩手医大ICUでの僅かな時間ではありましたが、私の手を力強く握り、笑顔を絶やすことなく会話が出来ました。私にとって貴重なひと時であり、示唆に富む一言一言を克明に覚えております。あれから16日目に残念ながら幽明境を異にしてしまいました。

先生は岩手医学専門学校を卒業後、慈恵医科大学泌尿器科学講座の講師、医局長をつとめるなど研鑽を積み、昭和35年に母校の泌尿器学講座助教授として着任し、41年教授に昇進されて多くの優秀な泌尿器科医を育て、教室の発展に大きく貢献されたことは誰しもが認めているところであります。

先生が母校に戻られた直後から、第二外科講座の医局員だった私は、何かと目をかけて頂きました。公私共にお世話になり、ご指導頂きましたことに改めて心から感謝を申し上げます。

医師会活動にもご熱心で、岩手県医師会の顧問を勤めるなど大所高所からの数々のご助言を頂きました。また、「大学も早く医師会を設置すべき」が持論でありましたし、大学医師会設置後自ら会長職を担うなど積極的に活動されました。

先生は表彰、受賞も数多く、主なものだけでも平成

9年の岩手県勢功労者顕彰、12年には勲二等瑞宝章、また盛岡市勢振興功労者表彰、福島県会津坂下町名誉町民推戴、福島県外在住功労者知事表彰など、先生の多方面に亘るご活躍の為せるものでありましょう。

先生が自ら主導した矢巾キャンパス構想の「総合移転整備計画第二次事業」も完成し、矢巾キャンパスで医学部、歯学部、薬学部の三学部が一つになって教育、研究が始まっております。これは日本で初めてのことであり、来年3月には薬学部第一回卒業生が輩出されます。

また、本年度は災害医学講座の開設、災害時地域医療支援教育センターの建設、ドクターヘリの本格運航、そして附属病院移転、内丸メディカルセンター整備事業と大事業が続きます。

昨年の同窓会圭陵会の代議員会と総会は新しい「大堀記念講堂」で開催されました。体調が優れず、主治医の反対を押し切って車椅子で出席してご挨拶され、出席代議員のお帰りを講堂の外で一人ひとりと「ありがとう、ありがとう」と感謝の固い握手をしながら見送られた姿が思い出されます。

今年は残念ながら、同じ大堀記念講堂で代議員各位に先生のご逝去を報告する事になってしまいました。

先生の生涯唯一の夢を描いた矢巾キャンパス構想も逐次計画通りに進捗しております。この大事業の最終章を一日でも早く臉に焼き付けたかったであろう先生の無念の胸中を察するとき、世の無常を感じざるを得ません。

今後は小川 彰理事長・学長を中心に、大堀構想の最終章を一日も早くご報告できますよう関係各位と力を一つにして頑張ってみます。どうぞ見守って下さい。

お名残は尽きません。今は唯、先生の天涯における日々がいつまでも安らかであることを念じ申し上げ、ご遺族に対する末長いご加護を賜りますようお願いし、ご冥福をお祈りしながらお別れ致します。

長い闘病生活でお疲れのお体をゆっくり休めて下さい。先生、さようなら。合掌。



弔 辞

医療法人社団 恵仁会
三愛病院 理事長 院長

山内 文俊



謹んで、医療法人社団恵仁会、職員250名を代表して大堀 勉先生にお別れの言葉を申し上げます。

昨年1月15日、前日までの雪もやみ、冬にはめずらしく快晴無風のなか、新三愛病院の地鎮祭が執り行われ、先生が大きなかけ声とともに力強く鍬を入れられたお姿が今も目に焼き付いております。

振り返りますと、昭和50年6月16日、何としても岩手県民に透析医療を提供したいという先生の熱い想いがこめられ、三愛病院が開院し、爾来、37年余りが経ちました。

その間、透析医療を中心に地域の皆様方に、よりよい医療を提供する努力を重ねてまいりました。

しかし、年を経るとともに徐々に建物の老朽化、狭隘化が目立ちはじめ、日々目覚ましく進歩する医学、医療と医療情報の電子化の広まりに対応していくため

には、むずかしい面がでてまいりました。

このような状況となってきたことから、将来ともに患者さん、地域住民の皆様の信頼を得られる三愛病院であり続けるためには、新しい施設の建設が必要であるという大堀先生のご英断により、新病院建設工事が動き出したのであります。

先生は、新病院建設地の取得もご自分で交渉され、その後の基本構想、基本設計の策定等、新病院建設に心血を注がれ、リーダーとしてあるべき姿をお示し下さいました。

新病院建設工事が始まって間もなく先生は体調を崩し入院されましたが、病床にあっても、お会いするたびに工事は計画どおり進んでいるか、安全は確保されているか、ご近所に迷惑をお掛けしていないか、いつもお気にかけておられました。

本年6月15日、新病院が開業いたしました。

何としても、先生には新病院をご覧頂きたかった、その職員の願いがかなわなかったことが残念でなりません。

しかし、新病院は先生の構想されたとおりの明るく、患者さんの気持ちが落ち着くであろう素晴らしい建物となりました。私どもは、このような病院を残してくれたことに感謝し、恵仁会の理念である「来院される全ての方に『来てよかった』と思われる」病院となるよう日々努力、精進することをお誓い申し上げます。

先生の御霊のやすらかならんことをお祈り申し上げますとともに、天上より恵仁会にご加護下さらんことをお願い申し上げ、お別れの言葉と致します。ありがとうございました。

弔 辞

矢巾町長 川村 光朗

深緑に包まれた霊峰岩手山は、薄曇りの中にももの悲しげに座り、北上の清流又空しく流れ去る時、学校法人岩手医科大学名誉理事長・名誉学長 大堀 勉様の御霊前に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

生者必滅会者定離はこの世のならいとは申せ、私が敬愛してやまない大堀先生の突然の訃報に接し、心からご逝去を悼み、御霊のとこしえに安らかならんことを心からお祈り申し上げます。

ご家族様の懸命なるご看護にも係わらず薬石効むなく享年87歳でのご逝去は、唯々痛恨このうえない悲しみばかりであります。この世は、諸行無常ではありますが、今、先生を偲ぶとき、心にぽっかりと穴が空いた寂しさとな人の世の無常を感じるところであります。

大堀先生との出会いは、平成12年、「岩手山がきれいに見える場所」を求められているというお話から、岩手医科大学総合移



転に関わるご縁で一緒にさせていただき、私にとって生涯忘れることのできないこととなりました。そして、このことは矢巾町にとっても、非常に大きな転換点となったところでもあります。もしこのようなお話がなかったら、今の矢巾町は無かったといっても過言ではありません。

岩手医科大学の総合移転事業は、平成14年9月にメディアに発表されて以来、平成15年には、西徳田地区土地売買契約締結調印式、4年後の平成19年4月には、

矢巾キャンパスが開校され、現在、1,600名余の学生が勉学に励まれているところであります。平成23年1月には、附属病院の移転事業用地売買契約調印式、同年3月には、第二次事業新築工事落成式が執り行われ、平成30年の新附属病院の開業に向けて事業が着々と進められているところであります。今年の3月には、ドクターヘリ基地ヘリポートが完成、4月には災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟建設工事起工式が挙行されたところであり、事業の順調な進捗を切に願うところであります。

この間、矢巾町では、矢幅駅が平成20年3月に橋上駅として生まれ変わったところでありますし、矢幅駅周辺土地区画整理事業により、現在、駅周辺を順次整備しているところであります。また、沿岸から通ずる国道396号を繋ぐ徳田橋の架け替え整備も順調に進んでいるほか、矢巾パーキングエリアから出入りできるスマートインターチェンジの調査と申請の準備を取り進めているところであり、新附属病院移転に向けて緊急車両に係る道路網の計画を進めているところであります。

このように、大学と病院施設の充実を目指されている医大と町勢発展を展開している本町との思惑がタイミングよく一致したところであり、これからは、医大の歴史と矢巾町の歴史が融合し、素晴らしい街になるものと確信するところであります。

先生は、水田が広がる会津坂下町の農家のご出身で、稲穂が実る田んぼを愛されており、「矢巾の徳田米の産地である優良農地をつぶすのは忍びない」とよくおっしゃっていました。しかしながら、その緑豊かな地に「歴史と権威のあるアメリカの世界的な医療機関メイヨークリニック」をここに造られる篤い思いがあって、矢巾に移られるとお聞きし、驚愕の思いでありました。移転完了が終着点ではなく、さらにその先の世界を見据えての最高の医療水準を目指されるその崇高なお考えにはただただ敬服するばかりであります。

また、農業にもお気遣いをなさる先生の優しいお人柄も偲ばれるところであり、行政を司る者として、その崇高で熱い思いをもった街づくりと人にやさしい心が大切であるということをお教えていただきました。

先生は、患者さんや学生の皆さんを常に大切に思われておりました。だからこそ、病院は、岩手山がきれいに見え、人々が癒される絶好の地であるこの場所にと思われたに違いありません。矢巾町には、東に早池峰山、西に南昌山、北に霊峰岩手山と、三方に内陸を守るかのように岩手の名山が鎮座しております。先生がお生まれになられた故郷の山、会津磐梯山から、岩手山に故郷の山を思い描いていただいたのではないのでしょうか。また、矢巾キャンパスに植えられた樺やオオヤマザクラは、今、多くの葉をつけ、ひときわ大きく成長しており、50年後、100年後には、さらに太く多くの葉や実をならせることでありましょう。このような地を選ばれた先生に、矢巾町民はもとより岩手県人として、衷心より敬意を表するとともに、手を合わせ、感謝申し上げるところであります。

先生のお言葉や笑顔は、今も私の脳裏に焼き付いて、私の心の中に生き続け、生涯忘れることはありません。私がお見舞いに伺ったとき、先生は穏やかなご様子であり、ご家族のご看護と先進医療により、必ずや回復すると信じておりましたのに、お別れの挨拶をするとは思ってもみず、医大の総合移転の完成をご自身の眼でご覧になりたかっただろうと思うと誠に無念であり、残念でなりません。

いまここに御遺族様のお悲しみを思いますとお慰めの言葉もございませんが、そのご功績は永遠に消えることなく生き続け、御意志は御家族の皆様と小川理事長をはじめとした大学関係者の方々によって必ずや果たされるものと信じてやまないところであります。

先生のご功績に対し、改めて尊敬の念と感謝の意を捧げますとともに、ひたすらご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

故人を偲ぶお別れの会が行われました

法人葬終了後に行われた故 大堀 勉先生を偲ぶお別れの会は、午後3時よりグランドホテルにおいて開かれ、約360名の方々が出席しました。

お別れの会は、小川理事長による主催者代表の挨拶で始まり、続いて東北大学元総長の吉本高志様により献杯が行われました。

献杯後は、北里大学名誉教授の小柴健様、株式会社岩手日報社相談役の村田源一朗様、本法人評議員の後藤康文先生、本学事務局の高橋事務局長より、大堀先生との思い出話などについてスピーチがあり、出席者全員で偉大な足跡を残された故人を偲びました。



大堀 勉先生の足跡 ～職員へのことば～

全学・全員の力を結集して実現する世紀の大事業「矢巾移転」

(前略) この移転事業には、実は隠れた大目的がある。それは第二代学長の三田定則先生が戦後まもなく掲げた大きなビジョンの継承である。これはあまりに壮大で、人に話しても、きっと大笑いをされるだけだと思って、これまでごく限られた人にしか話してこなかった。本学が昭和22年、岩手医専から大学に昇格した当時、三田先生は私たち生徒や教職員に向かって次のように力強く宣言したことがあった。「ここを、日本におけるメイヨークリニックにする!」。メイヨークリニック (Mayo Clinic) とは、アメリカ・ミネソタ州のロチェスター市を拠点としている歴史と権威のある世界的な医療機関で、その高い技術と充実した医療内容は世界中にとどろいている。(中略) 三田先生は、戦後まもない時期、あんなボロボロの建物で、研究設備も満足になく、貧乏な大学であった岩手医大にあって、「世界一を目指す!」と確固たるビジョンを高らかに示したのである。三田先生のあの気概と情熱は、実は今日まで岩手医大の中に脈々と受け継がれているのである。

(中略) この事業は全教職員、全同窓生をはじめ、関係者一同の総力によって成しうる大事業である。なんとか工事が最後まで無事に順調に進むことを願っている。

(著書：鉄は熱いうちに ―運鈍根の生涯― 第十一章矢巾移転より)

岩手医科大学八十年史 ―思源―

旧年は本学創立80周年にあたり、関係各位のご努力により八十年史を刊行することができました。そして副題を「思源」といたしました。この言葉は、私の恩師から56年前に教わったもので、その意味は「水を飲むときは井戸を掘った人の苦労を思え」と理解しています。「水を飲むとき」すなわち、「今生きている、或いは生活しているのは誰のおかげか。それは、親のおかげ、先祖のおかげである」と。また、私どもが大学で働かせていただけるのは、大学を創設した人、そして永年にわたる先輩各位の並々ならぬご苦労のおかげである」と。

以上のことから私どもは今後どうすれば良いか、皆様と一緒に考え、そして実行していきたいです。そこで思い出すのは、「私どもは大学から何かをやってもらおうとするのではなく、私どもが大学に対して何ができるか、を考えるべきである」と。

(岩手医科大学報 VOL.396「念頭のご挨拶―2009年―」より)

大堀 勉先生の足跡 ～揮毫～



「一以って之を貫く (いつもってこれをつらぬく)」

これは『論語』里仁篇の言葉であり、一つの道理や原則をもって万事を行うという意味ですが、生涯一つのことをやれることは人間として大変に幸せのことだと思います。趣味でも仕事でも一つのことをやり通すことは難しいことですが、それを楽しみながらやれるような境涯になりたいものです。とくに年をとったならば、悠悠自適の境地で、あせらずゆったりとした気持で仕事や趣味を楽しむとともに、人さまにも少しでも役立つようなことができればありがたいことだと思います。

鎌田 茂雄 (愛知学院大学教授・文博)

(解説：岩手医科大学報 VOL.378「新年のごあいさつ―2006年―」より)

「一座建立 (いちざこんりゅう)」

大事業の成るに当たっては、一個人の力では誠に微々たるものであり、多くの人力と物力とさらには天機という幸運がなければできない。

即ち建物を建てるには、設計した人、施工する人はもとより資材を運ぶ人、指導する人、地ならしをする人や財政的、精神的援助をした人に至るまでそれぞれの役割をする人の協力が必要である。

(解説：岩手医科大学創立八十周年記念碑の銘文解説より)



岩手医科大学創立八十周年記念碑

大堀 勉先生の足跡 ～在りし日の姿～



理事長・学長兼務時代：平成4年頃



創立60周年記念館施設披露・祝賀パーティーにて：
平成9年



勲二等瑞宝章受章：平成12年



総合移転整備計画第一事業新築工事落成式にて：平成19年
(写真左：故 今泉亀撤名誉教授)



盛岡さんさ踊りにて：平成20年



父兄会にて：平成20年

就任挨拶

歯科医療センター長就任ご挨拶

歯科医療センター長

杉山 芳樹



本

年4月1日付けで岩手医科大学附属病院副病院長ならびに歯科医療センター長を拝命することになりました。

本

歯科医療センターの大きな特長は、前身である岩手医科大学歯学部附属病院の開設以来45年もの間、歯学部の病院として臨床教育を行い多くの優秀な歯科医師を輩出してきただけでなく、東北地方の歯科医療の拠点病院としての役割を担ってきたことだと思います。

歯

科医療自体は外来診療が中心で、緊急性の高いものではないという認識が一般的だと思います。しかし、顎・口腔領域の外傷や悪性腫瘍、歯原性の腫瘍・嚢胞・炎症などの治療には高い専門性を要し、治療法の選択を誤ると患者さんの社会生活に大きな影響を残します。また、治療には患者さんへの大きな侵襲も伴います。歯科医療の中では、独自の病床を備え、全身麻酔下や鎮静法下で治療を行うことができる施設は貴重な存在です。しかも歯学部を有する本センターは、治療については歯科の三大科と呼ばれる補綴、保存、口腔外科の専門医だけでなく、矯正歯科、小児歯科、歯科インプラント、障がい者歯科などの専門医がおります。また、診断においても口腔病理学や歯科放射線科のエキスパートが存在し、診断レベルは間違いなく世界的にみても高い施設です。歯科領域の難症例は、一般内科や外科症例と比べると絶対数は少ないのですが、ある一定の確率で万遍なく分布します。したがって、東北地方のように広大な地域に存在する歯学部を擁

する本大学附属病院の社会的な存在意義は、一県に一施設の医学部単独の附属病院よりもはるかに高いものと思われます。実際、本歯科医療センターは東北、北海道地方の国公立大学歯学部の中で最も入院患者延べ数や全身麻酔・鎮静法管理下の治療数が多いのです。さらに、顎を大きく欠損した方の顎補綴や特殊なインプラント症例など、口腔機能を大きく損なわれた患者さんの最終治療の拠り所として、東北各地だけでなく道南からも患者さんが集まって来ます。

こ

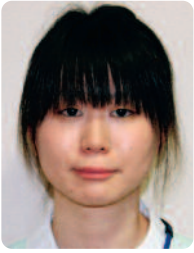
のところの歯学部入学者の低迷など日本の大学歯学部全体は活気がないのは事実です。この原因の一つに国家予算における歯科医療費の低迷があげられています。そして、これが歯科医療そのものの低評価に直結していることに理不尽さを感じている歯科医も多いと思います。しかし歯科界自体にも、旧態依然とした教育体系の維持や保健医療制度の根本的な改善努力を怠ってきた経緯があることも否めません。この問題を解決することは容易ではありませんが、歯科界自体が自助努力をして改革して行かなければならないと思います。

こ

れまで岩手医科大学附属病院歯科医療センターは、岩手県内だけでなく東北地方全体を視野に入れた医療展開を積極的に行い実績を上げてきました。今後とも、歯科医療センター長として、この特長をさらに伸ばして行きたいと考えています。

新入職員教育研修を受けて

● 看護部循環器5階 ICU 看護師 伊 勢 紫緒里



研修で学んだことは、これからは第一に岩手医科大学の職員としての自覚と責任を持ち、チームの一員としての行動を心掛けなくてはならないということでした。

岩手医科大学には、職員や学生、患者さんを含めると多くの人々が関わっています。そのため、私たちは病院の中だけでなく、常に岩手医科大学の職員という自覚を持って行動することが必要になります。講話中の例にもあったように、チームでの行動は一人の心ない行動が、そのチーム全体の印象となってしまうケースが多いことがわかり、自分自身の責任の重さを感じました。

私がこのチームの一員として責任を果たすためには、第一に職員同士はもちろんですが、患者さんに対する気持ちの良い挨拶をすることだと思います。新人であっても患者さんから見れば一人の看護師であり、相手が良い感情を持てるように意識して心掛けていきたいです。第二に個人情報の保護を厳守することです。病院内には様々な人が出入りし、医療従事者の会話を私たちが思っている以上に聞いており、日頃から十分に注意していく必要があると感じました。

研修で学んだ岩手医科大学の職員としての自覚と責任を果たすために、以上二つのことを心掛け、職員として日々、成長していけるよう頑張りたいです。

● 栄養部 栄養士 斉 藤 真衣子



3日間の研修を受け、社会人としてのマナーと岩手医科大学の職員としての責任と心構えを学ぶことができました。

今までの学生としての行動は、ほとんど個人として見られていましたが、社会人は個人としてだけではなく職場全体として見られることになります。そして患者さんを相手にしている自分たちのミスは患者さんに直結するとともに、本学の信用に大きく影響することになります。実際に現場に入ってみると、指示や連絡は「栄養部」宛てにきます。食事は直接体に入るものであるため、

薬剤等の治療と共に患者さんへの影響は大きくなります。研修の中で講話していただいた「人は誰でも間違える」という言葉には、人は思い込みや勘違い、見間違いで行動しミスを起こしやすいという背景があることを知りました。毎日行っている業務でも「いつも大丈夫だから今日も大丈夫」と思わず、常に医療従事者のプロとしての意識を持って業務に当たらなければならないと思いました。また、本学の目的である「誠の人間の育成」として、私は誠意のある気持ちの良い挨拶を心掛けていきたいです。挨拶で声を出すことで、コミュニケーションを円滑にし、良い人間関係を築いていけるように努力していきたいです。

● 財務部用度課 事務員 米 澤 元 基



新入職員研修を受けるにあたり、「患者さんに対する支えの在り方」を意識し、臨みました。その中で特に印象に残っていることは、小川理事長の「患者さんへの対等目線」というお言葉、また高橋事務局長の「プロ意識」というお言葉でした。

患者さんと直接関わっていく現場だからこそより大切となる挨拶・礼儀・思いやり・気配り・笑顔・謙虚さを初心とすること、またなりたい姿という目標を念頭に置きながら仕事を進め、自分の強みを築いていくことを意識

し、行動していこうと感じました。そして前職を経て、岩手医大で働く上で、これまでの経験というものを強みとし、ビジネスマナーはもちろんのこと、チーム医療の基礎である人間関係も充実させていけるよう、自発的かつ謙虚な姿勢を心掛けていこうと感じました。

医療資格を持たない事務員ではありますが、他職種の業務を支える根底として、自らの仕事に責任を果たすとともに、岩手医大の一職員という自覚を持ち、がむしゃらに頑張ろうと強く感じました。

表彰の栄誉

二井 将光 薬学部長が「日本学士院賞」を受賞しました



本学薬学部長の薬学部機能生化学講座 二井将光教授は、平成24年度日本学士院賞を受賞されました。6月4日(月)には、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、授賞式が行われました。

この賞は、学術上特に優れた研究業績に授与されるもので、国内で最も権威のある学術賞の一つであり、過去の受賞者にはノーベル賞受賞者が名を連ねています。

生物エネルギーの根本に関わる ATP 合成酵素（アデノシン三リン酸）の仕組みや細胞内イオン恒常性の機構を解明するなど、二井先生の生物エネルギー生産（転換）機構に関する系統的な研究が高く評価されました。先生は、生化学や細胞生物学の発展に大きく貢献されています。

大塚 耕太郎 特命教授が日本精神神経学会「精神医療奨励賞」を受賞しました

医学部災害・地域精神医学講座 大塚耕太郎特命教授は、第108回日本精神神経学会総会において「精神医療奨励賞」をメンタルヘルス・ファーストエイドジャパンの代表として受賞しました。同学会は、精神医学の国内最大規模の学会として位置づけられており、本年5月24日から3日間にわたり札幌市で開催されました。

大塚特命教授は、精神保健上の問題への初期対応を目的としたメンタルヘルス・ファーストエイドの対応法をオーストラリアから導入し、さまざまな職種・施設・地域と連携した精神医療・保健活動を展開していることが大きく評価されました。また、本プログラムは内閣府の自殺対策ゲートキーパー養成研修プログラムに採用されており、国家プロジェクトとして精神医療向上の大きな一助となっています。



写真右から2番目：大塚特命教授

鍵谷 忠慶 助教が「第11回インテリジェント・コスモス奨励賞」を受賞しました



解剖学講座 機能形態学分野 鍵谷忠慶助教は、半導体レーザーや光ファイバーの研究で有名な元東北大学総長の西澤潤一先生が理事長を務めるインテリジェント・コスモス学術振興財団が実施する第11回インテリジェント・コスモス奨励賞を受賞しました。この賞は、東北地域の活性化及び発展に寄与することが期待される、特に優れた自然科学研究に取り組む若手研究者に対して授与されるものです。

本研究は、「破骨細胞における新規 RNA 結合タンパク質を利用した創薬のための基盤研究」というタイトルで、遺伝情報を転写した伝令 RNA と結合するタンパク質に着目したものです。破骨細胞の分化や骨吸収におけるこのタンパク質の役割が明らかとなれば、歯周病における歯槽骨破壊、関節リウマチ、あるいは癌の骨転移等に対する治療薬が、新たな視点から開発可能となります。

久米 浩平 ポスト・ドクターが公益財団法人国際科学技術財団から研究助成金を贈呈されました

医歯薬総合研究所腫瘍生物学研究部門 久米浩平ポスト・ドクターは、外科学講座分子治療研究室 西塚哲講師のもとで行う研究が評価され、公益財団法人国際科学技術財団から研究助成対象者として採択されました。

この研究助成は、日本国際賞授賞者と同じ分野で研究する国内の35歳未満の科学者を対象に研究活動を支援・奨励することを目的としたもので、今年度は115の研究組織から23名が採択されました。

研究テーマは「ヒト癌薬剤反応機構における細胞集団不均一性の解明」で、化学療法後に一部の癌細胞集団が生き残る現象（再発）を、細胞個々の反応閾値の違いで説明しようというアプローチが高く評価されています。



前列左から：伊藤正男前会長、久米ポスト・ドクター、吉川弘之会長

金子 克 名誉教授が「瑞宝小綬章」を受章しました

本学名誉教授の金子克先生は、平成24年春の叙勲において瑞宝小綬章を受章しました。

金子先生は、日本獣医畜産大学医学進学課程を修了された後、本学医学部に入学され、昭和34年3月に本学を卒業されました。その後、昭和35年4月に医学部細菌学講座副手となり、同助手、同講師、同助教授を経て、昭和52年4月に歯学部口腔微生物学講座の教授に就任され、平成10年4月に名誉教授の称号が授与されました。

金子先生は、これまで医学・歯学双方の視点から細菌学、微生物学領域における教育・研究に尽力され、国内における感染症の原因究明とその予防などに大きく貢献されています。



医学部5年生3名が第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムで「内科学会総会優秀賞」を受賞しました



左から：伊藤准教授、上條夏美さん、日野原重明聖路加国際病院理事長、鎌倉大輔さん、吉江彩子さん

本学医学部5年生の鎌倉大輔さん、上條夏美さん、吉江彩子さんは、4月14日から二日間にわたり京都で開催された第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム「研修医、医学生のための内科学会」において、内科学会総会優秀賞を受賞しました。また、指導にあたった内科学講座循環器内科分野 伊藤智範准教授が優秀指導教官賞を受賞しました。

本学会には、全国の研修医と医学生による191の演題応募がありましたが、優秀賞に選出された学生の演題は、本学を含めわずか3演題でした。受賞演題は「たこつぼ型心筋症の臨床的特徴とその予後—性別による検討」で、ストレスを契機に発症する疾患であるたこつぼ型心筋症について、症例56例を調査して性別による違いを研究するなど、多症例を対象とした臨床研究が高く評価されました。

薬学部6年生の澤口 紗希さんが日本薬剤学会の懸賞論文に入選しました

本学薬学部6年生の澤口紗希さんは、日本薬剤学会が薬学部学生を対象に募集した「薬と健康の週間」懸賞論文において、第3席に入選しました。

全国の薬学部学生が応募したこの懸賞論文は「災害時における医療人の役割：薬学生の立場から」というテーマで募集されました。澤口さんの入選論文は、昨年の大震災発生以後、被災地の支援活動を行った薬剤師の活躍ぶりを薬学生の立場から理解し、大災害時において薬剤師が果たすべき役割や今後の薬剤師に求められていくこと、そのために学生時代から学ばなければならないことなどを記述しており、同学会から高い評価を受けました。



● 理事会報告 ●

■ 5月定例（5月28日開催）

1. 平成23年度事業報告について
2. 平成23年度決算及び監査報告について
3. 医学部副学部長の選任について
医学部副学部長 人見 次郎（新任）
（任期 平成24年6月1日から平成27年3月31日まで）
4. 健康管理センター長の選任について
健康管理センター長 嶋村 正（再任）
（任期 平成24年6月1日から平成25年3月31日まで）
5. 組織規程の一部改正について
(1) 医歯薬総合研究所の教員選考に係る関係条項の一部改正
（施行年月日 平成24年5月1日）
(2) 中央放射線部副部長の新設に伴う関係条項の一部改正
（施行年月日 平成24年6月1日）
6. 大学院薬学研究科設置認可申請に伴う寄附行為の変更について
大学院薬学研究科の設置認可申請に伴い、本法人寄附行為を変更し、文部科学大臣に認可申請を行うこととした。
7. 任期満了に伴う監事の選任について
監事 小野寺 勲（新任）
（任期 平成24年8月1日から平成26年7月31日まで）

附属病院で外来コンサートが行われました



5月26日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、今年で20回目となる岩手県民オーケストラによるコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族らが生演奏に耳を傾けました。このコンサートは、入院中の患者さんへ励ましと癒しを提供することを目的として、例年春と冬に開催されています。コンサートの開演に先立ち、病理学講座病理病態学分野の増田友之教授から患者さんへ挨拶があり、大勢の来場者が訪れたコンサートでは、「オズの魔法使い」や「タイタニック」など計8曲が演奏され、曲に合わせて、口ずさむ患者さんの姿も見られ、心温まるコンサートとなりました。

歯学部改革FD・臨床フォーラムが開催されました

5月28日(月)から30日(水)までの3日間にわたり、ハーバード大学歯学部の教員3名を招聘した歯学部改革FD・臨床フォーラムが内丸キャンパスで開催されました。フォーラムでは、本学の卒業生でもあるハーバード大学歯学部の永井成美准教授をはじめ、同大歯学部のジョン・ダシルバ歯科医療センター長、テオドロス・カポス講師を迎えて、症例検討会や講演会、研究成果発表会等が行われ、本学の歯科医師や歯学部学生が世界最先端の歯科医療に理解を深めました。

(写真中央席の左から：ハーバード大学歯学部 ジョン・ダシルバ歯科医療センター長、テオドロス・カポス講師、永井成美准教授、本学歯学部補綴・インプラント学講座 武部純准教授、山田優貴研究員)



症例検討会の様子

「ウェルカム2012 ～いい歯で健康 歯っぴーライフ～」が行われました



歯の色を測定する来場者

6月8日(金)、本学附属病院歯科医療センターにおいて、歯の衛生週間にちなんだイベント「ウェルカム2012 ～いい歯で健康 歯っぴーライフ～」が行われました。

会場には、各診療科によるパネル展示コーナーや歯の色や口臭の測定体験コーナー、歯を健康に保つ料理と災害時用非常食の試食コーナー、歯科材料で作成したキーホルダーのプレゼントコーナーなどが設けられ、一般市民の方々など総勢349名の来場者が歯の健康に関する知識を深めました。

平成24年度高度看護研修センター認定看護師教育課程開講式が行われました

本学附属病院高度看護研修センターは、東北では初となる認定看護師教育課程（緩和ケア分野）を開講する運びとなり、6月11日(月)午前10時から創立60周年記念館8階研修室において、開講式が執り行われました。

式では藤岡知昭センター長からの式辞、小川理事長からの挨拶に続き、研修生22名を代表して新田香澄さんが「水準の高い看護を提供できる認定看護師を目指します。」と宣誓を行いました。

開講式後には、日本対がん協会の垣添忠生会長による「がんとうき合って生きる」と題した記念講演が行われ、関係者が聴講しました。



研修生代表による宣誓の様子

平成24年度共通教育センター野外活動が行われました



マウンテンバイクの体験

平成24年度共通教育センター野外活動が、6月13日(水)に安比高原で行われ、3学部第1学年の学生291名と教職員32名が参加しました。

この野外活動は、本学リベラルアーツ教育の一環として、深い教養と人間性を兼ね備えた人格を育むことを目的として毎年開催されています。

参加した学生は、ブナ林の散策やパークゴルフ、釣り体験、陶芸体験、ピザ作りなどのプログラムを体験し、大自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めていました。

ライオンズクラブ国際協会様から岩手医大眼球銀行に寄付金が贈呈されました

6月21日(木)、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナー高橋晴彦様が来学し、本学眼球銀行（総裁：小川彰学長）に1,334,326円を寄付され、小川学長から感謝状が贈呈されました。

同協会から毎年いただいている寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。

ここにライオンズクラブ国際協会様には、心から御礼申し上げます。



第75回解剖体慰霊祭が行われました



第75回解剖体慰霊祭が、6月23日(土)午後1時30分から矢巾キャンパス大堀記念講堂において、小川学長をはじめとする本学教職員・学生とご遺族が参列して厳かに執り行われました。慰霊祭は83霊のご尊名奉読に続いて、小川学長による祭詞、学生を代表して歯学部4年の高橋秀平さんから追悼と慰霊のことばが捧げられました。続いて参列者全員で医学・歯学のために貢献された方々に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈り献花いたしました。慰霊祭終了後は、生前よりご自分の意思で献体登録され、成願された故人への文部科学大臣感謝状伝達式が行われ、ご遺族に感謝状とご遺骨が返還されました。

「矢巾町セカンドアカデミー in 岩手医大 ～医大矢巾キャンパスで学ぼう！～」が開講しました

6月26日(火)から全6回にわたり開催される「矢巾町セカンドアカデミー in 岩手医大 ～医大矢巾キャンパスで学ぼう！～」が本学共通教育センターと矢巾町教育委員会の主催により開講しました。

これは、地域住民の方々の生涯学習に対する多様なニーズに対応するため、社会一般に関する講座を開講し、教養を高める機会を提供することを目的としたもので、本年より始まった新しい取り組みです。

第1回目となる講座は、6月26日(火)に矢巾キャンパス図書館特別閲覧室において行われ、人間科学科文学分野 平林香織教授が20名の住民の方々に講義を行いました。



開講式で挨拶する高橋共通教育センター長

学位授与

●医学研究科（博士）

授与番号	氏 名	博 士 論 文 名	授与年月日
甲第1564号	石 川 雄 一	悪性黒色腫において CYLD 遺伝子は増殖能獲得に関与するが運動能は抑制する	平成24年 6 月 5 日
甲第1565号	松 下 翔 子	好中球 CD64発現量の小児基準値の検討	〃
甲第1566号	鈴 木 悠	早産極低出生体重児の成人期予後とその危険因子解析	〃
甲第1567号	白 澤 聡 子	極低出生体重児の3歳時予後と神経学的障害の危険因子解析	〃
甲第1568号	浦 上 千佳子	TGF- β による水晶体上皮細胞の上皮間葉系移行におけるロバスタチンの影響について	〃
甲第1569号	齋 藤 あゆみ	MR プラークイメージングT1 強調画像の頸動脈プラークの性状判定精度 － 4 種類の撮像法と病理標本との比較－	〃
甲第1570号	浮 津 真 弓	早産児の便中 calprotectin の経時的測定とその影響因子解析	〃
甲第1571号	菅 野 公 徳	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC6）が肝細胞癌の運動、浸潤能に与える影響	〃
甲第1572号	田 淵 剛	冠動脈疾患での microRNA-34a による長寿遺伝子 SIRT1 の発現制御に関する研究： HMG-CoA 還元変換酵素阻害薬による無作為比較臨床試験による検討	〃
甲第1573号	小野寺 正 幸	血漿 B 型ナトリウム利尿ペプチドは地域住民の糖尿病患者の心血管リスク評価に有用である； アルブミン尿との比較	〃
甲第1574号	小 林 めぐみ	超音波パルスドブラ法による極および超低出生体重児の新生児期における門脈血流測定	〃
甲第1575号	武 田 大 樹	正常肝と比較した化学療法後の肝切除における肝再生の検討	〃
甲第1576号	有 末 篤 弘	小腸虚血再灌流障害に対する ω -3 系脂肪乳剤の有用性	〃
甲第1577号	長 井 瑞 祥	Stanford B 型大動脈解離の慢性期予後への影響因子の検討	〃
甲第1578号	吉 田 雅 一	大腸癌における癌腺管と背景粘膜の非腫瘍性腺管の DNA メチル化異常	〃
甲第1579号	織 笠 俊 樹	大動脈瘤の診断マーカーの探索；動脈瘤と proinflammatory factor に関する研究	〃
甲第1580号	笹 井 賢 良	日本人2型糖尿病患者における冠動脈石灰化と冠動脈性心疾患リスクとの関連	〃
乙第731号	佐 藤 保	若い日本人女性を対象とした食事からの摂取に伴うフッ素バランスに関する研究	〃
乙第732号	宮 坂 昭 生	ベグインターフェロン/リバビリン併用療法の効果とC型肝炎ウイルス減少およびウイルス 変異の関係	〃
乙第733号	細 川 敬 輔	閉塞性睡眠時無呼吸症候群における血漿 vaspin 濃度と重症度および治療効果との関係	〃

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数 500字～1,000字程度）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先 大学報事務局（企画部企画調整課）
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

第99回大学報編集委員会

日 時：平成24年7月27日(金) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、藤本 康之、松政 正俊、齋野 朝幸、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、山尾 寿子、
佐々木 光政、昆 由美子、佐々木 忠司、畠山 正充、鈴木 尚子、野里 三津子

編集後記

本号は「故 大堀 勉先生を偲ぶ」追悼特集と先生が心血を注いだ矢巾町への大学病院・キャンパス移転と共に歩んだ大学報7月号との合併号となりました。

編集委員会上、大堀先生は常々「大学報は全職員並びに一般の方々を読まれるのであるから、できるだけ難しい語句は平易にするように」と諭されておられました。岩手医大が理解され、親しみを持っていただける内容が望ましいと本学を愛されている心を窺うことができるお言葉でした。

大堀先生、天上で毎月、愛読して下さり、さらにいい大学報に成ります様お導き下さい。
(編集委員 小山 薫)

岩手医科大学報 第430号

発行年月日 平成24年8月7日

編 集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2 - 8 - 7

TEL 019-623-4256

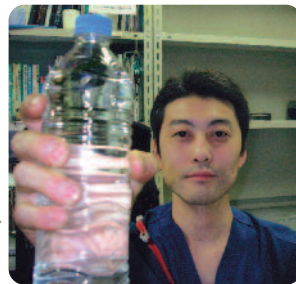
E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 39

救急医学講座

助教 菊池

さとし
哲



熱中症について

熱中症とは

熱が体の中にこもり、適切な放熱ができなくなってしまったため、脱水からくる様々な症状を呈する病気です。幼児やお年寄りが猛暑にさらされた場合や、若者でも暑熱環境下での労働や、スポーツ活動を行った場合に惹起されやすく、誰にでも起こりえる身近な病気です。また時には命を落とすこともある危険な病気です。

日射病や熱射病とは違うの？

熱中症の分類、定義は近年ある程度確立されましたが、今でも呼称に混乱がみられ、症状や緊急性の判断を難しくさせている感は否めません。厳密には患者の状態、重症度などによってⅠ：熱痙攣、熱失神、日射病、Ⅱ：熱疲労、Ⅲ：熱射病などと分類されていますが、これらは熱が中にこもり引き起こされる一連の病態です。これらをまとめて熱中症と総称します。

どんな症状を呈するのでしょうか？

四肢や腹筋などに痛みをともなった痙攣が見られたり、失神（数秒間程度なものから継続するものまで）めまい、倦怠感、頭痛、吐気嘔吐などを呈することが多く、重症になってくると意識障害、過呼吸、ショックなど vital sign（生命兆候）にも変調をきたします。覚えておいてほしいのは、熱中症患者が

早期に自分が熱中症だと自覚することはないということ。自覚した時はすでに重症化している場合がほとんどだということです。

予防法は？

暑熱環境に長時間滞在しないことが一番ですが、止むを得ない場合はこまめな水分補給、可能なら塩分、糖分の摂取も心掛けて下さい。

もし熱中症患者に遭遇したら！

まず呼びかけて意識状態を確認しましょう。異常が見られれば重症です。速やかに医療機関への搬送手段をとってください。それまでの間にできることとしては、大抵そのような場所は熱い環境でしょうから、木陰やクーラーの効いた屋内等へ移動させ、衣服を緩め通気性を良くしましょう。体表に水を塗ると、気化熱によりさらに患者の体温を下げる効果が期待できます。経口摂取が可能な状態なら、もちろん水分を摂取させます。生理的食塩水が最も良いとされていますが、そのようなものはまず身近にないでしょうから、まずは水、スポーツドリンクなどを与えていただいて結構です。

軽症に見えても重症なことがあるのが熱中症の怖いところです。意識障害がない場合でも、本症が疑われた場合は適切な医療機関を受診させることが大事でしょう。